

科目名	世界政治学Ⅱ	科目分類		■専門科目群		□総合科目群	
				経済学科	□必修	■選択	
				学科	□必修	□選択	
英文表記	International politics Ⅱ	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年				
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中				
ふりがな	いしかわ たけいち	実務家教員 担当科目	○	修得単位		2単位	
担当者名	石川 竹一	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用				
授業のテーマ	ロシアのウクライナへの侵略とウクライナ国民の殺戮、イスラエルのパレスチナ住民殺戮は世界（国際）政治の現実を世界に知らしめることとなった。その時々の世界（国際）政治の現実を反映した西洋政治思想を解き明かしながら、世界（国際）政治の真実を解き明かす。						
到達目標	ウクライナ等で起きている世界（国際）政治の実態が理解できるようになることにより、世界（国際）政治を理解する力を涵養する。						
授業概要	世界（国際）政治の現実を説明することを意図して生まれた西洋の政治思想を理解するためには政治思想とその思想が生まれた背景を知ることが必要である。西洋で生まれ現在に生きている国際政治学を把握し、その学習の基礎の上に立って、世界（国際）政治が過去どのような歩みを示し、地理、経済、社会、文化の背景の下で現在の形になったのかを学ぶ。ロシアのウクライナへの侵略等のウェストフェリア体制を揺るがすようなリアリズムの時代において、リベラリズムは勝利することができるのか、世界（国際）政治はどこへ向かうのか、動乱の時代に君はどう生きていくのかを考える。						
授業計画							
第1回	国際政治のしくみ、政治体制						
第2回	対外政策決定過程						
第3回	外交交渉、判例研究：マヴロマトリス・バレストライン事件						
第4回	国連の役割、判例研究：レインボー・ウォーリア号事件						
第5回	地域主義						
第6回	脱国家的主体						
第7回	国際政治の課題、核						
第8回	新しい戦争、判例研究：アカイエス事件						
第9回	国連PKO, 人道的介入、平和構築						
第10回	人権と民主主義、判例研究：バングラディシュ人難民不認定取り消し事件						
第11回	グローバリゼーション、判例研究：サルカ事件						
第12回	開発援助、判例研究：鉄ライン事件						
第13回	地球環境問題、判例研究：パルプミル事件						
第14回	科学技術とエネルギー						
第15回	さらに国際政治学を学ぶために						
第16回	定期試験						
授業時間外の学習	毎日、新聞の一面を読んでおく。教科書の該当箇所を読んで、日々専門用語等を理解しておくこと。前回講義に関する確認テストを行うので、しっかりと図書館などで復習しておくこと。(1.5時間程度)						
履修条件 受講のルール	世界政治学Ⅰを学んでおくことが望ましい。授業中私語は認めない。世界（国際）政治の実像を理解しようとする意欲。						
テキスト	国際政治学をつかむ、村田晃嗣他、有斐閣、2016						
参考文献・資料	平和政策（有斐閣、大芝亮、2006）、人類の議会（日本経済新聞社、ポール・ケネディ、2007）						
成績評価の方法	課題読書のサマリーレポート10%、研究レポート10%、クイズ20%、試験30%、平常点30% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験は受けることはできない。						
オフィスアワー	月曜日11時～12時30分、13時～14時30分						
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)						
実務経験及び実務を活かした授業内容	国連条約機関本部に26年間勤務（12年間は事務次長）し、数々の国際選挙・世界各国との政府間交渉・国際会議運営・国際機関の人事・管理・条約交渉など国際経済法執行のエキスパートである。国際政治学の真実を教授する。						
学生へのメッセージ	公務員志願者には受講を推奨。世界（国際）政治の中核的枠組みを体験的に学習することによって、世界（国際）政治学の視点が身に付き、世界の現状と動向を自らの目で捉えることができるようになる。						